

内田吉哉 (Yoshiya UCHIDA)

准教授

学位： 博士（文学）

略歴：

関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了

関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了

専門分野： 都市文化史、文化遺産学

研究課題：

1. 非文字資料を用いた都市文化史研究
2. 愛知・尾張地域研究
3. デジタル人文学

【著書】

- ・『日本と世界のくらし どこが同じ？どこがちがう？ 教科書に出てくる「くらしの中の和と洋』』（共著，
汐文社，2017，3）
- ・『竹生島宝厳寺調査報告』（編著，関西大学大阪都市遺産研究センター，2015，2）
- ・『「豊臣期大坂図屏風」の謎を解く』（単著，関西大学大阪都市遺産研究センター，2015，2）
- ・『「牧村史陽氏旧蔵写真」目録』（共編著，関西大学大阪都市遺産研究センター，2014，3）
- ・『新発見 豊臣期大坂図屏風』（共著，清文堂出版，2010，4）

【論文】

- ・「豊臣期大坂城南側の様相に関する試論 —エッゲンベルク城所蔵『豊臣期大坂図屏風』に描かれた景観から—」（大阪市史編纂所『大阪の歴史』86号，2015，7）
- ・「牧村史陽の写真で見る大阪」（関西大学大阪都市遺産研究センター『大阪都市遺産研究』第5号，2015，3）
- ・『「牧村史陽氏旧蔵写真」の研究とデジタルアーカイブ化』（関西大学博物館『阡陵』No. 69，2014，9）
- ・「消えた大阪、新しい大阪 —『牧村史陽氏旧蔵写真』に見る大阪の都市景観—」（関西大学大阪都市遺産研究センター『大阪都市遺産研究』第4号，2014，3）
- ・『「豊臣期大坂図屏風」に描かれた景観の再検討』（関西大学大阪都市遺産研究センター『大阪都市遺産研究』第3号，2013，3）
- ・『「豊臣期大坂図屏風」の人物と意匠』（関西大学大阪都市遺産研究センター『大阪都市遺産研究』第3号，2013，3）

【その他】

- ・「1960年代の日本 高度経済成長期の歴史的意義」（展示図録『国立民族学博物館開館40周年記念特別展 太陽の塔からみんぱくへ—70年万博収集資料』，2018，3）
- ・「梅棹忠夫アーカイブズに見る収集団の奮闘録」（『月刊みんぱく』第486号，2018，3）
- ・「大阪の都市景観の変遷を探る」（『月刊みんぱく』第485号，2018，2）
- ・「戊年で絵馬でネコ」（『月刊みんぱく』第484号，2018，1）
- ・「大阪名所の今昔—浪花百景との対比—」（川西市小学習短期大学，於アステ川西，2017，11）
- ・「水の都の風景—写真に残る堀川—」（川西市生涯学習短期大学，於アステ川西，2017，11）

- ・「デジタル人文学はアナログの世界——写真資料のデジタル化研究から」(『みんなく e-news』190号, 2017. 4)
- ・「土地に名を刻む」(『月刊みんなく』第470号, 2016. 11)
- ・「写真資料のデジタル化とその地域研究における活用—昭和中期の大阪を撮影した写真資料による事例—」(口頭発表, みんなく研究懇談会(第273回), 於国立民族学博物館, 2016. 8)

【研究テーマ】

絵画や写真などの非文字資料を用いて、日本の都市文化史を研究しています。これまで、大阪をフィールドとして、大坂城やその城下、街並み、堀川など、都市を特徴づける景観の変遷について研究してきました。今後は、愛知文教大学の所在地である愛知・尾張地域をフィールドとした研究も視野に入れていきます。そのほか、近年ではデジタル技術と人文学の融合を目指す「デジタル・ヒューマニティーズ(デジタル人文学)」という研究領域が注目を集めており、絵画や写真などの資料整理・研究成果発信への活用について関心を持っています。